



EUIJ-Kyushu Review

Issue 5 - 2015

スウェーデンにおける2014年
欧州議会選挙
**2014 European Parliament
Election in Sweden**

五月女律子
Ritsuko SAOTOME

スウェーデンにおける2014年欧州議会選挙

2014 EUROPEAN PARLIAMENT ELECTION IN SWEDEN

北九州市立大学法学部

五月女 律子

Ritsuko SAOTOME

The University of Kitakyushu

saotome@kitakyu-u.ac.jp

Keywords: Sweden, election, European Parliament, populist party, gender, young generation

Abstract

This article has two aims. The first objective is to examine the 2014 European Parliament (EP) election in Sweden. Though established parties lost a number of seats, the Green Party increased its seats. Two new parties (a radical right populist party and a feminist party) got seats, but other new parties that won past elections failed to gain a seat. More than half of the seats are held by women. Since all elected EP members were over thirty years old, the young generation is under-represented in the result of 2014 EP election in Sweden.

The second aim of this article is to compare the result of 2014 election with the past four elections in order to investigate characteristics of Swedish elections of the EP. In Sweden, voter turnout has increased since 2009 and seven political parties that have had seats in the national parliament since the 1990s continue to gain seats in the EP. Two new parties that won seats in 2004 and 2009 failed to gain a seat in the next elections, and a further two new parties got seats in the EP in 2014. Existing theories and studies on extreme right wing parties can be useful to analyze the rise and fall of small parties and new parties in the EP

elections.

In Sweden, political parties that have seats in the national parliament have constantly gained seats in the EP. One of the new parties that won the EP election in 2014 has had seats in the national parliament since 2010 and is recognized as a radical right populist party. The rise and fall of new parties, the gender balance, and the representation of the young generation could be important issues of the next EP election in Sweden.

1. はじめに

2014年5月に実施された欧州議会選挙¹ではEU（欧州連合）懐疑政党の議席獲得が目撃され、イギリスでは英国独立党（UKIP）、フランスでは国民戦線（FN）、デンマークではデンマーク国民党が第1党となり、一部の加盟国で極右政党・右翼ポピュリスト政党が大躍進する結果となった。スウェーデンにおいても、これまでに欧州議会選挙で議席を獲得したことがない新党の動向が目撃された。スウェーデンの選挙結果では、他のEU加盟国におけるEU懐疑政党ほどの得票率の増加は見られなかったものの、2つの新党が20議席のうち3議席を獲得した。

1995年のEU加盟後、スウェーデンで実施された欧州議会選挙において新たに議席を獲得した政党は、2004年の6月リスト（EU懐疑・反ユーロ政党）、2009年の海賊党（インターネット上の自由を主張）の2党であった。2014年の欧州議会選挙では、スウェーデン民主党（右翼ポピュリスト政党）、フェミニスト・イニシアティブ²（男女平等を主張）の2政党が新たに議席を獲得し、前回選挙で初めて議席を獲得した海賊党は議席を喪失

¹ 欧州議会の歴史、役割、構成については、児玉昌巳『欧州議会と欧州統合』成文堂、2004年が詳しい。スウェーデンの欧州議会選挙制度については、五月女律子「欧州議会選挙と国内政治——スウェーデンを事例として」『北九州市立大学法政論集』第37巻第2号、2009年、32-38頁を参照。欧州議会の略史や現在の状況については、欧州議会ホームページ <<http://www.europarl.europa.eu>> を参照されたい。

し、6月リストも当選者を出すことはできなかった。

スウェーデンで第二次世界大戦後に国政レベルの議会で新規に議席を得た政党は4党（1980年代にキリスト教民主党、環境党、1990年代に新民主党、2000年代にスウェーデン民主党）であり、そのうち新民主党を除く3党が現在まで継続的に議会で議席を獲得している³。しかし、スウェーデンの欧州議会選挙においては、2014年以前に新たに議席を獲得した政党で連続して当選者を出した政党はない。

スウェーデンでは、国政レベルの議会選挙において議席を獲得した新党に対して支持者の投票行動にある程度の継続性が存在するが、欧州議会選挙のみで議席を得た新党への投票は一過性となる傾向がある。本稿ではまず、スウェーデンの2014年の欧州議会選挙に見られた特徴を、各党の選挙活動と有権者の投票行動を中心として探ることを目指す。次に、過去の欧州議会選挙との比較を通じて、その継続性や変化について考察を行う。若年層や女性の代表性という視角からも分析を試みる。最後に、現時点で入手可能なデータから新党の議席獲得について、右翼ポピュリスト政党の躍進を分析する既存の理論のいくつかを参照しつつ検討していきたい。

2. 既存政党の選挙キャンペーン

2014年5月の時点で、国政レベルでは与党が4党、野党が4党であった。本節では既存政党として、1990年代以前に国政レベルで議席を獲得した7党を考察対象とする。2010年の国政選挙で初めて議席を獲得したスウェーデン民主党（野党）は、次節で新党として考察を行う。

2-1. 選挙キャンペーンでの争点

連立政権を構成する与党は、穏健連合党（保守政党）、国民党（自由主義政党）、中央党（旧農民党）、キリスト教民主党（保守政党）の4党、野党

² スウェーデン語の表記 (Feministiskt initiativ) 通りに日本語表記をすると「フェミニン・ステイスクト・イニシアティブ」となるが、本稿ではわかりやすくするために英語表記 (Feminist Initiative) をカタカナで表記することとする。

³ 新民主党は内紛などにより消滅したため、議席の獲得は1991年の1度のみであった。

は最大政党の社民党、環境党、左翼党（旧共産党）の3党という構図の中で選挙キャンペーンが展開された。欧州議会選挙は必ずしも国政と連動しているわけではなく、欧州議会選挙が国内の政権運営に直接的に影響を及ぼすとはいえないため、選挙キャンペーンは国内での与野党にかかわらず各政党で独自に行うことが可能である。しかし、スウェーデンの場合、2014年は欧州議会選挙（5月25日）の約4カ月後の9月15日に国内議会選挙⁴を控えていたため、各党は国内政治を見据えてキャンペーンを進める必要があった。有権者も政党のEU政策や候補者よりも、国内政治を重視して投票するとの世論調査結果であった⁵。

大手の新聞で各政党の主張を比較する形で取り上げられた争点は、失業、予算、個人情報保護、自由貿易協定、遺伝子組み換え作物、環境問題、警察協力、地域支援、教育であった⁶。世論調査結果では有権者が欧州議会選挙で重視する争点は、環境（15%）、学校・教育（10%）、失業・労働市場（10%）、難民・移民・統合（8%）などであった⁷。このような状況の中で、各政党は自党の独自性を示して得票につなげるべく選挙キャンペーンを展開した。

2-2. 与野党の選挙戦略と有権者の反応

投票日2カ月前の3月時点の世論調査では、有権者の37%が欧州議会選挙に必ず投票に行くと答えるに留まり、2月時点の調査結果よりは増加していたものの、目標とされていた投票率の50%を下回り関心の低さが心配された⁸。5月に入るとマスメディアが欧州議会選挙について頻繁に取り上げるようになり、各政党の候補者に対する党支持者の支持率や、現職のスウェーデンの欧州議会議員の活動実績が各党を比較する形で新聞に掲載されるなど⁹、選挙を前にした有権者への情報の発信が活発になった。

⁴ スウェーデンでは、4年毎に国（riksdag）、県（landsting）、市町村（kommun）の3つの議会選挙が同一日に実施される。

⁵ *Dagens Nyheter*（以下 DN と表記）2014.5.17; *Svenska Dagbladet*（以下 SvD と表記）2014.5.17.

⁶ SvD 2014.5.16.

⁷ DN 2014.5.18.

⁸ SvD 2014.3.26.

5月初頭から各政党が本格的に欧州議会選挙の選挙キャンペーンを開始した。2014年の欧州議会選挙も過去の選挙同様に、街中に各党の選挙小屋 (valstuga) が設置され、有権者と候補者や支持者が対面で会話をする機会が設けられた。テレビで党首が一同に会する討論が行われるなど、選挙戦が熱を帯びていった。また、ソーシャルネットワークも特に若い世代に利用され、検索サイトや短文投稿サイトなどを欧州議会選挙に関する情報の収集に使用する人が増加した。

与党で首相の所属政党の穏健連合党は、EUの政治に影響を及ぼすことを通じて、スウェーデンとヨーロッパ双方において雇用と成長を拡大させることが可能になると強調した。穏健連合党にとって重要なEUにおける政策課題は、EUとアメリカの間の自由貿易協定についてであった。その他、EUレベルでの税金の導入に反対する姿勢を示し、犯罪、テロ、難民への対策でのEUにおける協力を主張した。また、最大野党である社民党への批判も行った¹⁰。候補者も、経済、自由、安全保障を重要課題と認識する姿勢を見せた。国民党は自党が最も親EU政党であることを強調し、スウェーデンで著名な現職の女性候補者 (Marit Paulsen 政党の候補者名簿で1位) は経済と雇用を優先課題として、自由貿易の推進と若者の失業問題の重要性を主張した¹¹。また、党首はEUレベルでの警察協力の強化などを訴えた¹²。中央党は環境政策に力を入れていることから、候補者はEUでの環境・気候政策を重視することをアピールした。キリスト教民主党の候補者は個人の自由と社会的責任を重視し、ヨーロッパにおける自由と安全保障、雇用と企業に対するEUの必要性を強調した¹³。

最大政党である野党の社民党は、党首 (Stefan Löfven) が親EUの立場であることから¹⁴、貿易、市場、研究、教育、インフラなどでのEUレベル

⁹ SvD 2014.5.2.

¹⁰ SvD 2014.5.3.

¹¹ SvD 2014.5.9.

¹² SvD 2014.5.20.

¹³ SvD 2014.5.9.

¹⁴ スウェーデンの金属関連の労働組合 (IF Metall) の幹部を務めた後に、社民党の党首となった。スウェーデンへのユーロ導入を問う2003年の国民投票では、賛成の立場で活動した (SvD 2014.5.9)。

での協力を強調し、給与や労働条件が悪化しないヨーロッパの労働市場の重要性を主張した。候補者は失業問題と環境政策を重視するとともに、スウェーデンの労働組合の権利を取り戻すことをアピールした。左翼党の候補者は、ヨーロッパ（特に南欧）における失望感や失業を重要問題とし、福祉を危うくする右派政治に歯止めをかける役割を果たすことを訴えた。環境党は自党が強みとする環境政策のEUでの発展を主張し、候補者は海洋・漁業政策や気候問題を重視することを示した¹⁵。4月末時点の世論調査では、環境党と社民党の支持率が増加しており、それぞれ16.1%（2009年欧州議会選挙の得票率は11.02%）と31.2%（同24.41%）との調査結果であったことから¹⁶、野党2党の躍進が予想された。特に環境党は、投票日前日に発表された世論調査で穏健連合党を抜いて社民党に次ぐ第2党の支持率に達する結果となり、議席の増加が見込まれた¹⁷。

投票日10日前の5月16日に発表された世論調査結果では、有権者の4分の3が各党のEU政策の情報を得ていないと考え、特に穏健連合党の支持者は最も欧州議会選挙での支持政党の政策を認知していないことが示された。世論調査の数値から見ると中央党は議席を喪失し、スウェーデン民主党が議席を獲得するとの予測であった¹⁸。中央党はストックホルム中央駅構内に選挙キャンペーン用の広いスペースを設け、EUの経済通貨同盟（EMU）について議論するなど、党の独自性をアピールすることにより有権者の支持獲得を目指したが、同党の戦略に対しては批判もあった¹⁹。多くの有権者を動員する鍵となる社民党と穏健連合党の二大政党は、自党の支持者を投票へと動かすことに苦勞していた²⁰。国内選挙と比較して関心の低い欧州議会選挙に有権者の足を向けさせることは容易とはいえない状況であった。

¹⁵ SvD 2014.5.9.

¹⁶ SvD 2014.5.7.

¹⁷ SvD 2014.5.24.

¹⁸ SvD 2014.5.16.

¹⁹ SvD 2014.5.11.

²⁰ SvD 2014.5.22.

3. 新党の選挙キャンペーン

3-1. スウェーデン民主党

スウェーデン民主党が欧州議会選挙で示した選挙マニフェストでは5つの優先課題が示され、それらに通底する根本にはEUからスウェーデンの独立性や独自性を守るという基本方針が見られた²¹。従来は男性候補者が多かったスウェーデン民主党は候補者名簿に占める女性の割合を50%に引き上げ、名簿の第1位を女性にした²²。候補者の選挙公約はEUに移譲したスウェーデンの自己決定権を取り戻すことと、EUからの義務を減らすことであった²³。候補者はEUの移民政策や人の移動の自由の問題を強調するというよりも、スウェーデンの国家としての決定権を重視する姿勢を見せた。

スウェーデン民主党は前回の2009年欧州議会選挙より支持率が上昇していたが、党首の街頭演説は多くの場所で反対デモにあった²⁴。激しい反対デモが行われたところでは逮捕者が出るなど混乱も見られた。マスメディアでは、同党に対して各地で大規模な反対デモが起こっていることや、選挙ポスターの文言が人種差別的であるとの指摘があることなど²⁵、否定的な報道が選挙期間中に散見された。各種世論調査では数値にばらつきがあるものの支持率は5%台後半から6%台前半であり²⁶、スウェーデン民主党の議席獲得は予想されたが、2010年の国内議会選挙と比較して大幅な躍進の兆候が見られる状況ではなかった²⁷。

²¹ 5つの優先課題は、国家の自己決定権を取り戻すための国民投票、EUへの拠出金の減額とスウェーデンの福祉への増額、EUシステム内での汚職に対する徹底調査、強固な国境管理および移動の自由の乱用・大規模な物乞いの停止、給与ダンピングの停止とスウェーデンの労働市場モデルの保護、であった (DN 2014.5.5)。

²² 2014年の欧州議会選挙では、EU加盟国全体で極右政党の候補者において女性が増加し、スウェーデン、フランス、デンマークでは候補者名簿の半数が女性であった (SvD 2014.5.9)。

²³ SvD 2014.5.9.

²⁴ 例えば、5月14日のカールスタッド (Karlstad) での街頭演説では、約400人の反対デモにより演説を最後まで終えることが出来なかった (SvD 2014.5.14)。

²⁵ SvD 2014.5.15.

²⁶ DN 2014.5.12; SvD 2014.5.12.

スウェーデン民主党は議席を獲得した場合、欧州議会においてどの政治グループに所属するかは2014年9月の国内議会選挙後に決定することを表明した。これに対しては、極右政党と見なされることの多いフランスの国民戦線やオランダおよびオーストリアの自由党と欧州レベルで協力することにより、スウェーデンの有権者に「極右政党」との印象を与えて国内選挙で自党が不利になることを避ける目的があると、極右政党の研究者から指摘された²⁸。東欧以外のEU加盟国で極右政党・右翼ポピュリスト政党の躍進が予想され²⁹、欧州議会でのEU懐疑・極右政党の議席数の大幅な伸張が懸念されていたことから、スウェーデン民主党の得票の伸びも注目を集めた。投票日直前の5月23日の報道では、世論調査においてスウェーデン民主党は8.6%の支持率で、2議席を獲得するとの予測であった³⁰。

3-2. フェミニスト・イニシアティブ

5月4日にテレビで行われた党首討論にフェミニスト・イニシアティブは招かれなかったが、注目を集める存在となっていた。5月7日以降、マスメディアで取り上げられる頻度やインターネットでの検索回数が急増した³¹。世論調査で同党への支持率が増加し、テレビ討論では争点の項目として取り上げられていないが、男女平等が課題として有権者の間で浮かんでいることが指摘された³²。5月14日時点で、ソーシャルメディアにおいて社民党に次いで話題に上る政党となっていた³³。同月20日に発表され

²⁷ 2010年の国政選挙については、五月女律子「スウェーデン政党政治の変容? — 2010年選挙の考察を中心として」『北九州市立大学法政論集』第38巻第4号、2011年を参照されたい。

²⁸ SvD 2014.5.15.

²⁹ DN 2014.5.10, 2014.5.22; SvD 2014.5.7.

³⁰ SvD 2014.5.23.

³¹ Anders Sundell, “Är Feministiskt Initiativs opinionsframgångar orsakade av media?,” *Dagens Nyheter*, 2014.5.22, <<http://blogg.dn.se/sundellssiffror/2014/05/22/ar-feministiskt-initiativs-opinionsframgangar-orsakade-av-media/>>, accessed 2014.5.23.

³² Göran Eriksson, “EU-valet skymdes i debatt,” *Svenska Dagbladet*, 2014.5.4, <http://www.svd.se/nyheter/valet2014/partiledardebatt-i-svt-agenda_3525588.svd?sidan=8>, accessed 2014.5.5.

³³ SvD 2014.5.14.

た世論調査では、フェミニスト・イニシアティブへの投票の可能性を考えている有権者は22%との結果であった³⁴。女性の4分の1、男性の5分の1が投票の選択肢として考慮するとの数値であった³⁵。

投票日直前の5月23日の世論調査に関する報道では、フェミニスト・イニシアティブの支持率は4.3%であり、1議席を獲得するとの予想であった³⁶。同日の全国紙の新聞（電子版）には、各党が欧州議会選挙においてフェミニズムや男女平等に関してどのような主張であるかについて、比較する記事が掲載された³⁷。選挙戦終盤にフェミニスト・イニシアティブの議席獲得の可能性が高いことが世論調査結果に表れてくると、テレビや新聞などのマスメディアがそれまでは争点として特別に取り上げていなかった男女平等が、候補者の討論などで扱われるようになっていった。

3-3. 海賊党と6月リスト

海賊党と6月リストは選挙キャンペーンで苦戦していた。5月12日に発表された世論調査結果の支持率は、海賊党が1.3%、6月リストが0.5%と、議席獲得に必要な4%を大きく下回る状況であった³⁸。現職の欧州議会議員を擁する海賊党はテレビでの党首討論に招かれず、全国紙の新聞の論説欄でテレビ局に対する不満を表明した³⁹。テレビ局側は、国政レベルの議会に議席を持つ政党のみを対象としたとの立場を同紙で示したが⁴⁰、海賊党はテレビ局が欧州議会選挙に敬意を示していないとの批判を再び同紙に

³⁴ SvD 2014.5.20.

³⁵ DN 2014.5.20.

³⁶ SvD 2014.5.23.

³⁷ DN 2014.5.23.

³⁸ DN 2014.5.12. スウェーデンの欧州議会議員選出の選挙制度においては、全国で4%以上の得票率が獲得できなかった政党には議席が配分されない。

³⁹ Christian Engström, et al., “Fult av SVT att hålla oss utanför debatten,” *Svenska Dagbladet*, 2014.5.6,
<http://www.svd.se/opinion/brannpunkt/fult-av-svt-att-halla-oss-utanfor-debatten_3531922.svd>, accessed 2014.5.7.

⁴⁰ Eva Landahl and Robert Olsson, “Bara riksdagspartier bjuds in till SVT-debatt,” *Svenska Dagbladet*, 2014.5.7,
<http://www.svd.se/opinion/brannpunkt/bara-riksdagspartier-bjuds-in-till-svt-debatt_3536800.svd>, accessed 2014.5.9.

掲載した⁴¹。

同党の主張は個人情報の保護とインターネットの自由（ファイルシェアの自由）であったが⁴²、2009年にソーシャルメディアを中心に若者の関心を集めたインターネットの自由の問題は、2014年の欧州議会選挙時にはほとんど話題にならなかった。欧州議会に議席を保持していた海賊党は選挙戦で存在感を示すことができず、6月リストも2004年に議席を獲得した後は、マスメディアに取り上げられることもほとんどなくなっていた。2009年の欧州議会選挙時と比較して、読者の多い新聞で両党が言及される頻度は減少した⁴³。両党とも2004年および2009年には一躍注目を浴び旋風を巻き起こして欧州議会に議席を獲得したが、その後は国内議会選挙でも議席を得ることはないまま支持率が低迷し、2014年の欧州議会選挙でも支持率を上昇させる機会を掴むことはできなかった。

4. 選挙結果

4-1. 環境党の躍進と新党2党の議席獲得

2014年の欧州議会選挙の期日前投票（förtidsröstning）は5月7日に開始された。5月15日時点で期日前投票は過去最高となり、世論調査において必ず投票に行く意思を示す有権者は52%となった⁴⁴。同月20日時点で、期日前投票を済ませた有権者は2009年の同時点と比較して23.1%の増加となった⁴⁵。大都市部では期日前投票が多く、ストックホルムやヨーテボリ（Göteborg）のある地域では最終的に20%近くが期日前投票を行い、最も少ない地域でも約13%が期日前投票を利用した⁴⁶。

⁴¹ Christian Engström, et al., “SVT visar ingen respekt för EU-valet,” *Svenska Dagbladet*, 2014.5.9,

<http://www.svd.se/opinion/brannpunkt/svt-visar-ingen-respekt-for-eu-valet_3544932.svd>, accessed 2014.5.10.

⁴² SvD 2014.5.9.

⁴³ Sundell, op.cit.

⁴⁴ SvD 2014.5.15.

⁴⁵ DN 2014.5.20.

⁴⁶ DN 2014.5.25.

投票率は前回2009年(45.53%)より5.54ポイント上がり、51.07%と50%を超えた⁴⁷。この投票率は1995年のEU加盟後にスウェーデンで行われた欧州議会選挙において最も高い数値となり、EU全体の投票率(43%)を上回った。高級住宅地や大学生の多い街では、56%以上の投票率の選挙区が複数あった⁴⁸。

投票日直前の世論調査を基にした各党の予想獲得議席は、社民党6、穏健連合党4、環境党、国民党、スウェーデン民主党が各2、キリスト教民主党、中央党、左翼党、フェミニスト・イニシアティブが各1であった⁴⁹。上述のように、最終の世論調査では環境党の支持率が穏健連合党を上回る結果のものがあるほど、環境党の躍進が予想された。2014年のスウェーデンの欧州議会選挙の投票結果は表1の通りとなり、9党が議席を獲得した。

表1 2014年欧州議会選挙結果

(合計20議席)

	穏健連合党	中央党	国民党	キリスト教民主党	環境党	社民党	左翼党	スウェーデン民主党	フェミニスト・イニシアティブ	海賊党
得票率(%)	13.65 (-5.18)	6.49 (+1.02)	9.91 (-3.67)	5.93 (+1.25)	15.41 (+4.39)	24.19 (-0.22)	6.30 (+0.64)	9.67 (+6.40)	5.49 (+3.27)	2.23 (-4.90)
議席数	3 (-1)	1 (0)	2 (-1)	1 (0)	4 (+2)	5 (-1)	1 (0)	2 (+2)	1 (+1)	0 (-2)

・下段()内は2009年欧州議会選挙からの増減。

出所: Statistiska centralbyrån (SCB), "Stora skillnader i antal röster per mandat för svenska partier." Pressmeddelande från SCB, Nr 2014: 164, 2014.6.26.

<http://www.scb.se/sv/_Hitta-statistik/Statistik-efter-amne/Demokrati/Allmanna-val/Europaparlamentsval-valresultat-/12376/12383/Behallare-for-Press/375483/>, accessed 2014.6.30; Valmyndigheten, op.cit.; Valmyndigheten, "Val till Europaparlamentet - Valda." 2014.5.30.

<<http://www.val.se/val/ep2014/slutresultat/E/rike/valda.html>>, accessed 2014.7.30のデータより筆者作成。

⁴⁷ Valmyndigheten, "Val till Europaparlamentet - Röster," 2014.5.30,

<<http://www.val.se/val/ep2014/slutresultat/E/rike/index.html>>, accessed 2014.7.30.

⁴⁸ 投票率の最高値はストックホルムの選挙区の64.7%、最低値はスウェーデン南西部の選挙区の36.3%であった (SvD 2014.5.26)。

⁴⁹ SvD 2014.5.23.

これは過去最多の政党数となり、新党2党（スウェーデン民主党、フェミニスト・イニシアティブ）が同時に当選者を出すのも初となった。

既存政党で議席が増加したのは環境党のみであり、最大政党の社民党に次ぐ4議席を獲得する大躍進となった。大都市（ストックホルム、ヨーテボリ、ウプサラ、ルンド）では得票率が20%前後まで伸び、第1党となった⁵⁰。対して、穏健連合党と国民党は1議席ずつ減らす結果となった。特に与党で首相の所属政党である穏健連合党は得票率を5.18ポイント落とし、2009年の欧州議会選挙で躍進した国民党も得票率が減少した。

新党では、スウェーデン民主党が得票率を6.40ポイント上昇させて4%の壁を越え、2議席を獲得した。得票率が高かったのは南部で、特にスコーネ（Skåne）地方（デンマークに近い地域）での強さが目立った⁵¹。フェミニスト・イニシアティブも当選者を出すことに初めて成功した。男女平等政策が進んでいると言われるスウェーデンにおいて、男女平等を争点とする政党が議席を獲得するという結果となった。得票が多かった地域は大都市圏と北部であった⁵²。2009年の欧州議会選挙で旋風を巻き起こし、初めて議席を獲得していた海賊党は、得票率を4.90ポイント落とし議席を失った⁵³。

スウェーデン民主党は、他党と比較して最も大きく得票率を伸ばした。この得票率の増加がEUの移民政策や入国管理政策に対する不満の表れであるかは、有権者の投票理由に関する今後の詳細な分析が必要となろう。2010年の国政レベルの議会選挙での得票率（5.70%）からは3.97ポイントの伸びであり、スウェーデン民主党は着実にスウェーデン政治に根付いてきているように見える。ただし、2014年9月に実施された国内議会選挙の国政レベルでの得票率が12.86%と2010年の選挙と比較して7.16ポイント上昇したのと比較すれば⁵⁴、欧州議会選挙での増加幅は少なかったといえる。他

⁵⁰ SvD 2014.5.26.

⁵¹ DN 2014.5.26.

⁵² Ibid.

⁵³ 2009年欧州議会選挙での海賊党の躍進については、五月女「欧州議会選挙と国内政治——スウェーデンを事例として」51-54頁を参照されたい。

⁵⁴ スウェーデン民主党は、社民党、穏健連合党に次ぐ第3党となり、議席を20から49へと増加させる結果となった。

のEU加盟国では、極右政党やナショナル・ポピュリスト政党が国内の議会選挙よりも欧州議会選挙で得票率を大幅に伸ばす現象が見られるが、スウェーデンの2014年の事例では欧州議会選挙よりも国内議会選挙で、右翼ポピュリスト政党が大躍進する結果となった。

フェミニスト・イニシアティブの躍進の背景や要因について本稿で詳細な分析は行わないが、EUレベルでは女性の活躍が不十分であるとスウェーデンの有権者が考えて投票したのであれば、EUの課題に対応する政党を選択したと考えられる⁵⁵。

4-2. 候補者および当選者の年代と性別

スウェーデンの選挙制度は比例代表制であり、1998年から指名投票 (personröst) という制度が導入され、各政党の候補者名簿の個人名に印を付けることにより、投票する候補者を指定することが可能である。2014年の選挙では、20議席のうち指名投票による当選者は14名となり、社民党と環境党以外の政党は全員が指名投票で当選者が決定した (社民党は5名中1名、環境党は4名中2名が指名投票による当選)⁵⁶。50.03%の投票用紙で指名投票が行われ、議席を獲得した9党の中で最も指名投票の割合が高かったのは国民党の62.55%、最も低かったのは左翼党の38.24%であった⁵⁷。多くの政党で投票者の50%前後が指名投票を行っており、当選者の決定に大きな影響を及ぼしたといえる。2014年選挙の候補者および当選者の年代と性別は表2および表3の通りであった。

候補者には10～20代が全体で18.7%いるにもかかわらず、当選者が1人

⁵⁵ EUにおいて女性の活躍は重視されており、ユンカー次期欧州委員会委員長が2014年9月に発表した欧州委員会の閣僚名簿では、3分の1が女性となった。これは、事前に欧州議会が女性の割合が最低3分の1に達しない場合、閣僚名簿を承認しないと表明していたことが背景にある。また、副委員長7名のうち2人を女性とし、重要部門に女性を起用した。水面下で女性を欧州委員会の候補者とした加盟国には重要な担当を優先的に配分する方針が示され、実際に女性候補を出した加盟国には、副議長や重要部門の政策担当が割り当てられた (『日本経済新聞』[電子版] 2014年9月10日)。

⁵⁶ Valmyndigheten, “Val till Europaparlamentet - Valda.”

⁵⁷ Valmyndigheten, “Val till Europaparlamentet - Personröster,” 2014.5.30, <<http://www.val.se/val/ep2014/slutresultat/E/rike/personroster.html>>, accessed 2014.7.30.

表2 2014年欧州議会選挙の候補者の年代および性別 (単位: %)

	18～29歳	30～49歳	50～64歳	65歳以上	男	女
穏健連合党	23.3	50.0	23.3	3.3	53.3	46.7
中央党	14.0	39.5	39.5	7.0	60.5	39.5
国民党	14.3	50.0	23.8	11.9	52.4	47.6
キリスト教民主党	16.3	37.2	39.5	7.0	48.8	51.2
環境党	22.5	50.0	22.5	5.0	50.0	50.0
社民党	16.7	50.0	26.7	6.7	50.0	50.0
左翼党	10.3	48.7	35.9	5.1	48.7	51.3
スウェーデン民主党	30.0	55.0	10.0	5.0	50.0	50.0
フェミニスト・イニシアティブ	12.5	50.0	25.0	12.5	—	100.0
海賊党	40.0	45.0	10.0	5.0	65.0	35.0
6月リスト	—	22.2	5.6	22.2	55.6	44.4
スウェーデン全体	18.7	45.6	28.3	7.5	53.6	46.4

・この表では2014年の選挙を含めて欧州議会に議席を獲得した実績のある政党のみを表記しているため、スウェーデン全体の数値は上記11党の数値のみで算出されたものではない。

出所: Valmyndigheten, "Val till Europaparlamentet - Ålder och kön," 2014.5.30.
 <<http://www.val.se/val/ep2014/alkon/E/rike/alderkon.html>>, accessed 2014.7.30のデータより筆者作成。

表3 2014年欧州議会選挙の当選者の年代および性別 (単位: %)

	18～29歳	30～49歳	50～64歳	65歳以上	男	女
穏健連合党	—	33.3	66.7	—	67.7	33.3
中央党	—	100.0	—	—	100.0	—
国民党	—	50.0	—	50.0	—	100.0
キリスト教民主党	—	—	100.0	—	100.0	—
環境党	—	25.0	75.0	—	50.0	50.0
社民党	—	40.0	20.0	40.0	40.0	60.0
左翼党	—	100.0	—	—	—	100.0
スウェーデン民主党	—	50.0	50.0	—	50.0	50.0
フェミニスト・イニシアティブ	—	—	100.0	—	—	100.0
スウェーデン全体	—	40.0	45.0	15.0	45.0	55.0

出所: 表2と同一資料のデータより筆者作成。

もない。50歳以上は候補者と当選者に占める割合を比較すると、後者の数値が大きく上回っている。男女比を見ると、候補者の割合では男性のほ

うが多いが、当選者の割合では女性が逆転している。欧州議会におけるスウェーデンの議席数は20と多くないため、人口比などを考慮して各世代や性別に適切な割合で当選者を出すよう調整することは難しいといえるが、後述するようにスウェーデンの欧州議会選挙では若年層の当選者はこれまでも少ない。

5. 考察 一過去4回の欧州議会選挙との比較

スウェーデンでは1995年のEU加盟以来、2014年を含めると5回の欧州議会選挙が行われたが、そこには何かしらの変化や継続が見られるのであるろうか⁵⁸。

5-1. 投票率と議席配分の推移

1995年から2004年まで、スウェーデンの欧州議会選挙の投票率はEU全体の数値を下回っていたが、EU全体の投票率の低下が進んだためその差が徐々に縮まりつつあった。スウェーデンでは最低の投票率を記録した2004年(37.85%)以降は上昇傾向に転じ、2009年はEU全体43%、スウェーデン45.53%と逆転し、2014年はその差が広がることとなった⁵⁹。これは、EU全体での投票率は横這いで2014年は2009年と同じく43%であったのに対して、スウェーデンの投票率が上昇したことによるものである。

次に政党および候補者・当選者について、2014年の欧州議会選挙結果を示した上記の表1～3と、2009年までの欧州議会選挙結果をまとめた以下の表4～6とを合わせて、スウェーデンの欧州議会選挙に見られる特徴を検討したい。まず、表4は各党の得票率と議席数の推移を示したものである。

⁵⁸ 1995年から2009年までのスウェーデンにおける欧州議会選挙の詳細については、Henrik Oscarsson and Sören Holmberg, “Svenska europaval: En sammanfattning av några resultat från valundersökningarna i samband med valen till Europaparlamentet 1995, 1999, 2004, 2009,” Demokratistatistik rapport 10, Statistiska centralbyrån, 2011; 五月女「欧州議会選挙と国内政治 — スウェーデンを事例として」38-54頁、五月女律子『欧州統合とスウェーデン政治』日本経済評論社、2013年、193-196, 217-226頁を参照されたい。

⁵⁹ SCB, “Stora skillnader i antal röster per mandat för svenska partier.”

表4 1995年から2009年の欧州議会選挙結果（得票率と議席数）

	1995年 (22議席)	1999年 (22議席)	2004年 (19議席)	2009年 (18議席 + 2 議席)
穏健連合党	23.2 5	20.7 5	18.25 4	18.83 4
中央党	7.2 2	6.0 1	6.26 1	5.47 1
国民党	4.8 1	13.9 3	9.86 2	13.58 3
キリスト教民主党	3.9 0	7.6 2	5.69 1	4.68 1
環境党	17.2 4	9.5 2	5.96 1	11.02 2
社民党	28.1 7	26.0 6	24.56 5	24.41 5 (+1)*
左翼党	12.9 3	15.8 3	12.80 2	5.66 1
6月リスト	— —	— —	14.47 3	3.55 0
海賊党	— —	— —	— —	7.13 1 (+1)*
スウェーデン民主党	— —	— —	1.13 0	3.27 0
フェミニスト・ イニシアティブ	— —	— —	— —	2.22 0

・上段が得票率（単位：％）、下段が議席数。

* 2009年12月のリスボン条約発効後に、スウェーデンの定数が18から20議席に増加し、2009年5月の選挙結果を基に社民党と海賊党に1議席ずつ配分された。

出所：Oscarsson and Holmberg, op.cit.; SCB, “Antal nominerade och valda kandidater i svenska val till Europaparlamentet efter parti. År 1995-2009.” 2010.6.22,
 <http://www.scb.se/sv_/Hitta-statistik/Statistik-efter-amne/Demokrati/Allmanna-val/Europaparlamentsval-nominerade-och-valda/255729/2009A01/Antal-nominerade-och-valda-kandidater-i-svenska-val-till-Europaparlamentet-efter-parti-Ar-1995-2009/>,
 accessed 2014.6.30; Valmyndigheten, “Val till Europaparlamentet.” 2009.6.11,
 <<http://www.val.se/val/ep2009/slutresultat/rike/index.html>>,
 accessed 2014.7.30; Valmyndigheten, “Val till Europaparlamentet - Röster” のデータより筆者作成。

既存政党は得票率に増減が見られ議席数も変動しているが、議席の獲得は継続している。ただし、欧州議会選挙と国内議会選挙での得票率の増減が必ずしも一致しているわけではなく、欧州議会選挙のみで得票率を大きく伸ばす事例が過去に何度も見られている。また、国内議会選挙と比較すると、新党による議席の獲得・喪失の頻度が高いといえる。

5-2. 選挙における世代と性別

表5および表6は欧州議会選挙における候補者・当選者の年代・性別であるが、国内の議会にはない特徴が見られる。

1995年以降の当選者の年代と性別の割合をみると、18～29歳の当選者が継続して少ないことがわかる。有権者がEUレベルの政治では他国の政治家との交渉などが重要なため、経験豊富なベテランに意図的に投票している可能性があるが、各世代から多少なりとも代表を出すことが望ましいと考えるのであれば、若者の過少代表は課題となる。既存政党の候補者にも若者がいることを考えれば、若者を当選させるには各政党が候補者名簿の順位を決定する時や有権者が指名投票を行う際に、考慮することも可能で

表5 欧州議会選挙の候補者の年代および性別 1995～2009年

(単位：%)

	1995年	1999年	2004年	2009年
18～29歳	19.2	26.2	17.7	19.9
30～49歳	47.4	33.9	39.0	35.2
50～64歳	30.5	36.4	36.8	34.0
65歳以上	2.8	4.0	6.5	10.9
男	56.1	59.4	57.8	58.4
女	43.9	40.6	42.2	41.6

出所：SCB, "Valda kandidater i svenska val till Europaparlamentet efter kön och parti. År 1995-2009. Antal," 2010.6.22.

<http://www.scb.se/sv/_Hitta-statistik/Statistik-efter-amne/Demokrati/Allmannaval/Europaparlamentsval-nominerade-och-valda/255729/2009A01/Valda-kandidater-i-svenska-val-till-Europaparlamentet-efter-kon-och-parti-Ar-1995-2009-Antal/>, accessed 2014.7.30; SCB, "Nominerade och valda kandidater i svenska val till Europaparlamentet efter kön och ålder. År 1995-2009. Procent," 2010.6.22.

<http://www.scb.se/sv/_Hitta-statistik/Statistik-efter-amne/Demokrati/Allmannaval/Europaparlamentsval-nominerade-och-valda/255729/2009A01/Nominerade-och-valda-kandidater-i-svenska-val-till-Europaparlamentet-efter-kon-och-alder-Ar-1995-2009-Procent/>, accessed 2014.7.30; SCB, *Val till Europaparlamentet 2009*. Statistiska centralbyrån, 2010, pp.106, 109 のデータより筆者作成。

表6 欧州議会選挙の当選者の年代および性別 1995～2009年

(単位：%)

	1995年	1999年	2004年	2009年*
18～29歳	4.5	—	10.5	—
30～49歳	50.0	40.9	42.1	50.0
50～64歳	45.5	50.0	36.8	38.9
65歳以上	—	9.1	10.5	11.1
男	59.1	59.1	42.1	44.4
女	40.9	40.9	57.9	55.6

*2009年の数値は選挙直後の18議席における割合である。

出所：表5と同一資料のデータより筆者作成。

あろう⁶⁰。当選者の男女比は、近年は女性が50%をやや超えている。今後どちらかの性別に当選者があまりに偏るようなことが継続した場合は対策を考える必要が生じるかもしれないが、今のところは極端な偏りとはいえないレベルであろう⁶¹。

6. 既存理論からの分析 一 小党および新党の躍進

欧州議会選挙については、選挙実施時の国内政治の動向が有権者の投票行動に影響を与え、与党に厳しい結果となったり、国内選挙のサイクルの反映になったりという特徴を指摘する研究もあるが⁶²、スウェーデンの2014

⁶⁰ 2014年9月に実施された国政レベルの議会選挙は、欧州議会選挙と同様の選挙制度で行われたが、議員の平均年齢（約45歳）は史上最も若かった（SvD 2014.9.25）ことから見ると、スウェーデンの有権者がすべての選挙で年配の候補者に投票する傾向があるわけではないと考えられる。国政レベルの議会では2010年の議員の平均年齢は47歳、1991年は51歳近くであったことから、長期的傾向としては議員の平均年齢は下がっている。

⁶¹ 2014年9月の国政レベルの議会選挙結果では、議員に占める女性の割合は2010年の44.99%から43.55%に低下しており（SvD 2014.9.21）、スウェーデンの議会選挙全般で女性議員の割合が増加しているわけではない。国政レベルでの現在までの最高値は2006年の47.3%であるが、それ以降は女性の当選者が少ないスウェーデン民主党の躍進により平均値が押し下げられているため、2回の選挙で連続して女性議員の割合は減少している。

⁶² Juliet Lodge, “Irrelevant and obsolete? The European Parliament and voters in perspective,” in Juliet Lodge (ed.), *The 2009 Elections to the European Parliament*, Palgrave Macmillan, 2010, pp.19-21.

年の事例では最大野党やナショナリスト政党が大幅に議席を増やしているわけではない。スウェーデンにおける過去の欧州議会選挙でも、国内政治への不満と結び付けられた投票行動が特徴的に表れていたとの指摘はなされていない。

2014年5月2日から25日の間に行われた政党支持に関する世論調査の結果と欧州議会選挙での得票率の差は表7の通りであった。

傾向としては、世論調査で支持率が高い大政党は欧州議会選挙で得票率を10ポイント前後落とし、小政党の支持率が増加しており、特に環境党と国民党が得票率を伸ばした。環境党は18～60歳の女性で得票率1位、31～60歳の男性では2位と高かった。女性全体では2位、男性全体でも3位の得票率であり、特に女性からの支持が高かったといえる⁶³。国民党は、投票理由として候補者を挙げた割合が82%と高かったことから⁶⁴、候補者名簿1位の現職が国民的人気のある作家であることが影響していたと考えられる。

表7 2014年5月の世論調査における政党支持と欧州議会選挙での得票率の差

	穏健 連合党	中央党	国民党	キリスト教 民主党	環境党	社民党	左翼党	スウェーデン 民主党	その他
支持率 (%)	22.7	4.9	5.3	3.9	8.0	35.3	8.0	8.1	3.9
得票率との差	-9.05	+1.59	+4.61	+2.03	+7.41	-11.11	-1.7	+1.57	+4.55

出所：表1と同一資料のデータおよび SCB, *Partisypatiundersökningen (PSU) maj 2014*, ME60BR1401, 2014, p.5より筆者算出。

⁶³ SCB, “Partival vid Europaparlamentsvalet 2014 efter parti, kön och ålder. Procent,” 2015.5.22,
<http://www.scb.se/sv_/Hitta-statistik/Statistik-efter-amne/Demokrati/Allman-val/Europaparlamentsval-valundersokningen/12424/12431/296207/>, accessed 2015.5.22.

⁶⁴ SCB, “Väljare om skäl för sitt partival vid Europaparlamentsvalet 1995-2014. Procent,” 2015.5.22,
<http://www.scb.se/sv_/Hitta-statistik/Statistik-efter-amne/Demokrati/Allman-val/Europaparlamentsval-valundersokningen/12424/12431/296205/>, accessed 2015.5.22.

スウェーデン民主党の増加率が1.57ポイントであったことを見ると、ナショナルリスト政党が欧州議会選挙で大きく支持率を伸ばしたイギリス、フランス、デンマークなどとスウェーデンは異なる。また、フェミニスト・イニシアティブについては、世論調査において他の政党も含めた「その他」が3.9%であったことから見ると、欧州議会選挙で得票率を大きく伸ばしたといえる。

小政党の躍進や新党の議席獲得を分析する視角は様々あるが、ここでは近年研究が進んでいる極右政党に関する分析枠組みを使って、スウェーデンにおける欧州議会選挙での新党の躍進について考えてみたい。スウェーデンの欧州議会選挙において議席を増やしたり新たに議席を獲得したりした政党の全てが極右政党に分類されるわけではないが、極右政党の台頭を分析する理論は小政党や新党が有権者の支持を拡大させた背景を探るためのヒントになると考えられる⁶⁵。

極右政党の躍進に関する研究については、イートウェル (Eatwell) が需要側 (社会的経済的変化) 5説と供給側 (政党から有権者への影響) 5説に整理・分類している⁶⁶。需要側として、単一争点説、抗議説、社会解体説、(反) 脱物質社会説、経済利益説、供給側として政治的機会構造説、メディア化説、国民的伝統説、綱領説、カリスマ的指導者説が挙げられている。以下で全てを取り上げることはできないが、いくつかの説について検討したい。

需要側から見た場合、スウェーデンで国内選挙や世論調査の結果よりも、環境、反ユーロ、インターネット、国家の自己決定権、男女平等などの争

⁶⁵ 1994年と1999年の欧州議会選挙で議席を獲得したEU加盟国の極右政党の分析は、Wouter Van Der Brug and Meindert Fennema, "Protest or mainstream? How the European anti-immigrant parties developed into two separate groups by 1999," *European Journal of Political Research*, vol.42, 2003, pp.55-76を参照されたい。

⁶⁶ Roger Eatwell, "Ten theories of the extreme right," in Peter H. Merkl and Loenard Weinberg (eds.), *Right-Wing Extremism in the Twenty-First Century*, Frank Cass, 2003, pp.48-58. 右翼ポピュリズムに関する理論研究について邦文では、島田幸典「ナショナル・ポピュリズムとリベラル・デモクラシー — 比較分析と理論研究のための視角」河原祐馬・島田幸典・玉田芳文編『移民と政治 — ナショナル・ポピュリズムの国際比較』昭和堂、2011年、樋口直人「極右政党の社会的基盤 — 支持者像と支持の論理をめぐる先行研究の検討」『アジア太平洋レビュー』2013年にまとめられている。

点を強調する政党が支持を得た要因として、欧州議会選挙でEUレベルでのこれらの課題が重視されて、支持を伸ばしたとの説明が考えられる。欧州議会選挙時に中心的議論となったテーマ、課題、争点について投票したのであれば単一争点説での分析が可能であり、既存の小政党の躍進や新党の議席獲得は、選挙時に特に注目された争点による結果と捉えることができるであろう。2004年および2009年に議席を獲得した新党は、単一争点（ユーロ導入反対、インターネット上の自由）を強調し、選挙期間にそれらの論点が話題として上っていた背景があり、当選者を出すことができたといえる。その点では、単一争点説が説明力を持つと考えられる。2014年欧州議会選挙に関する世論調査でも、通常投票する政党に投票したと世論調査で回答した割合は、フェミニスト・イニシアティブが最も低く（5%）、次いで海賊党（8%）、環境党（16%）であり、議席を獲得できなかった海賊党は18～30歳の男性においては4位の得票率（10%）であった⁶⁷。2014年9月の国内議会選挙でこれらの政党が同等の得票率ではなかったことから、EUレベルでの政策の一部に対する有権者の意思表示が欧州議会選挙の投票行動に表れたとみることができよう。

既存政党（特に大政党）がEUレベルで十分に役割を果たしていないとの批判から有権者が小政党や新党に投票したのであれば、抗議説での分析が有用であると考えられる。また、小政党や新党の主張を支持しているわけではないが、国内選挙が近い時期に予定されていないことから国内政治に対する不満を表明する思惑で、有権者が欧州議会選挙でこれらの政党に票を投じた場合も抗議説に含まれよう。2014年欧州議会選挙に関する調査では、投票政党選択の理由として政党の国内政治での役割を挙げた割合がスウェーデン民主党で際立って高く（93%）、国内政治で他党と連携せずに独自の主張を継続する点が重視されたと考えられる。投票理由として候補者を挙げた割合が非常に低いことから、党の国内政治における独自の立ち位置を評価した投票が多かったといえよう⁶⁸。環境問題、インターネット、男女平等という現代的な課題が有権者に重視されたと捉えるならば、

⁶⁷ SCB, “Väljare om skäl för sitt partival.”

⁶⁸ Ibid.

(反) 脱物質社会説も説得力を持ちうるであろう。2014年欧州議会選挙でも、環境党、海賊党、フェミニスト・イニシアティブへの投票は若年層に多く、伝統的価値観や既存政党の政策優先順位にとらわれない世代が、中年とは異なる投票行動を取っているといえる。

供給側から考えると、政治的機会構造説で見た場合、既存政党が争点として重視してこなかった問題を新党が取り上げ、その争点によって有権者を引きつけることに成功したとすれば、海賊党やフェミニスト・イニシアティブは政治的機会を上手く活かすことができたといえる。しかし、現時点で継続性という点を考慮すると「構造」とまでいえるかは難しいであろう。小政党や新党の躍進が単に抗議票を獲得したのではなく、有権者から自党の選挙マニフェストへの支持を得ることに成功したのであれば、綱領説が分析枠組みとしては有用になるであろう。カリスマ的指導者説は、スウェーデンでは政党の党首が有権者から得ている信頼や人気得票率に影響することはあっても、現時点ではカリスマといえるほど多くの国民から特別感を持たれる存在になっているとは考えづらいため、分析枠組みとしてこれまでの事例に当てはめることは困難かもしれない。

2014年の欧州議会選挙で議席を新たに得た政党は、右翼ポピュリストとフェミニストであり、フェミニスト・イニシアティブの党首が元左翼党党首であったことから、後者は左派に分類することが可能であるといえる。2014年の事例を考察する際に有用であると考えられる興味深い議論としては、既存政党に飽き足らない有権者が極右と左派に流れる場合があることを指摘した研究がある。紙幅の都合上、詳細な分析は別稿に譲るが、例えばイニャーツィ (Ignazi) は1980年代の新保守主義 (neoconservatism) の台頭によって政治における対立軸の幅が拡大し、環境政党や極右政党が票を獲得しうる環境が形成されたことを明らかにしている⁶⁹。極右政党の支持において男女差が見られることが既存研究で指摘されており⁷⁰、2014年

⁶⁹ Piero Ignazi, "The silent counter-revolution: Hypotheses on the emergence of extreme right-wing parties in Europe," *European Journal of Political Research*, vol.22, 1992, pp.3-34. 社会民主主義政党と極右政党の間の競争について分析した研究については、Kai Arzheimer, "Working-class parties 2.0? Competition between center-left and extreme right parties," in Jens Rydgren (ed.), *Class Politics and the Radical Right*, Routledge, 2012を参照されたい。

欧州議会選挙の結果でもスウェーデン民主党への投票者は男性が多く（男性8%、女性2%）、環境党やフェミニスト・イニシアティブは女性の投票者が多かった（それぞれ女性21%、10%）。スウェーデン民主党は60歳以上の男性に投票者が多く（11%）、環境党は18～30歳の女性で27%、31～60歳の女性で23%に上り、フェミニスト・イニシアティブは18～30歳の女性において23%の得票率で2位であった⁷¹。

また他の分析枠組みとして、有権者がEUには国内と異なる固有の課題があると認識して国内議会選挙での支持とは異なる政党を選択している場合には、合理的選択論が有用となることも考えられる。例えば、大政党が行わないEUにおける課題の指摘またはその解決を望む有権者が、EU固有の問題に関する政策を提示する小政党や新党に投票した可能性もあろう。2014年欧州議会選挙に関する調査では投票政党の選択理由において、調査対象の全政党平均で政党の国内政治での貢献（79%）よりもEUの課題に対する政党の政策（86%）が高く、全ての政党で80%を超えている。特に環境党、中央党、左翼党、穏健連合党、国民党への投票者では88%以上であった⁷²。スウェーデンの有権者の多くは欧州議会選挙を国内政治の不満を示す場ではなく、EUに対する政党の政策を選択する機会と捉えていると考えられる。

欧州議会選挙と国内選挙の投票行動の関係は加盟国によって異なり、すべてを包括する理論を構築することは難しいと考えられる。しかし、欧州議会選挙に見られる国内政治とは異なる特徴について既存理論を応用しつつ分析することは、EUでの意思決定過程において欧州議会の権限が増し、EUの民主性の一つの柱と考えられている点から重要であろう。

7. おわりに

2014年のスウェーデンにおける欧州議会選挙は、穏健連合党、国民党、

⁷⁰ 例えば、Hold Coffé, “Gender, class, and radical right voting,” in *ibid.* で既存研究が紹介され、ヨーロッパ各国の極右政党支持への男女差が分析されている。

⁷¹ SCB, “Partival vid Europaparlamentsvalet 2014.”

⁷² SCB, “Väljare om skäl för sitt partival.”

社民党の議席減、環境党の議席増、スウェーデン民主党とフェミニスト・イニシアティブの議席獲得、海賊党の議席喪失という結果となった。1980年代以降にスウェーデンの政治に参入したキリスト教民主党、環境党、スウェーデン民主党は、国内議会の複数回の選挙で議席を獲得し、国内政治に根付いた後に欧州議会で議席を獲得したといえる。6月リストと海賊党は欧州議会選挙で一度は議席を獲得したが、次回選挙で議席を守ることはできず、国内議会選挙でも議席を獲得していない。2014年5月の欧州議会選挙でフェミニスト・イニシアティブは初めて当選者を出すことに成功し、2014年9月の国内選挙でもいくつかの地方議会で議席を獲得したが、国政レベルでは得票率が4%に達しなかった⁷³。

国政レベルの議会で議席を獲得した後に欧州議会で議席を獲得した政党は、双方の議会で継続して議席を守る傾向が見られるが、欧州議会選挙で突然に票を伸ばして当選者を出した政党は、2度目の欧州議会選挙や国内の議会選挙での議席獲得に苦戦している。その時々に関心・話題となっていた争点（ユーロ導入、インターネットにおける著作権）がマスメディア等でクローズアップされて投票行動に結びついた場合は、その後に継続して有権者からの支持が得られていないといえよう。スウェーデン民主党は2010年以降、国政レベルの選挙で議席を継続して保持しており、世論調査の支持率も常に4%を超えるようになっているが、今後フェミニスト・イニシアティブが欧州議会選挙および国内の議会選挙で議席を獲得し続けることができるかは不透明である。

期日前投票が前回よりも増加したことは、政党や候補者の主張を選挙キャンペーン期間中に十分に比較検討して投票する政党や候補者を判断するというより、早い時期に投票政党や候補者を決めている有権者が増加していることの現れであると考えられる。投票する政党が国内議会選挙と同じ政党であるのか、欧州議会選挙では変えているのかは異なるが、選挙戦

⁷³ 筆者が現地で視聴した2014年9月14日夜のテレビの開票速報番組では、投票締切時間直後に4%を超える予測が出され（Sveriges Televisionで4.0%、TV4で4.4%）、議席の獲得が予想されたが、番組放送途中で下方修正され、選挙管理局による最終集計結果では3.12%であった（Valmyndigheten, “Fördelning av mandat och fastställelse av vilka kandidater som har valts till ledermöter och ersättare i valet till riksdagen 2014,” Dnr: 14-242/4, 2014.9.20）。

終盤まで悩む有権者は減少傾向にあるといえる。

2014年の欧州議会選挙でも10～20代の過少代表は続いており、今後もこの傾向が継続するのか、国内議会選挙と同様に若者（35歳以下）の当選者を増加させることを目指す政党が出てくるのかは現時点では不明である。有権者が高い関心を示す失業や教育の問題は、若い世代に直接的に大きな影響を及ぼす政策であることを考えれば、若者を欧州議会の議員に少数であつても選出する方策を政党レベルで検討することが望ましいかもしれない。

スウェーデンにおいて国政レベルの議会では女性議員の割合が近年は減少しているが、欧州議会選挙では女性議員の割合が2004年以降50%を超えている。欧州議会は現状より女性の議員を増やすべきとの意識がスウェーデンの有権者に働いているのか、何らかの偶然なのかは、投票理由の詳細な分析を行わなければ分からない。しかし、男女平等に関する様々な国際比較で高評価を得ているスウェーデンにおいて、2014年の欧州議会選挙で男女平等を主張する政党が、特に若い女性有権者の支持により議席を獲得したこととともに、興味深い結果であるといえよう。

スウェーデンにおける欧州議会選挙では、環境党、スウェーデン民主党、フェミニスト・イニシアティブ、海賊党への投票で世代・男女で大きな差が表れている。今後のスウェーデンの欧州議会選挙においても、新党の盛衰、若年層の投票行動および過少代表、ジェンダーの視角は事例分析の際に重要となるであろう。

原稿受理：2015年2月27日

掲載承認：2015年6月1日